

2025年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年3月13日

上場会社名 HEROZ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4382 URL https://www.heroz.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 林 隆弘
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 森 博也 TEL 03(6435)2495
 配当支払開始予定日 -
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家、アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2025年4月期第3四半期の連結業績（2024年5月1日～2025年1月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA※		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年4月期第3四半期	4,346	19.7	492	△32.6	158	△60.7	91	△73.3	△180	-
2024年4月期第3四半期	3,631	93.2	730	107.0	402	105.6	343	112.7	△921	-

(注) 包括利益 2025年4月期第3四半期 34百万円 (-%) 2024年4月期第3四半期 △745百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年4月期第3四半期	△11.96	-
2024年4月期第3四半期	△61.32	-

※EBITDA（営業利益＋減価償却費＋敷金償却＋のれん償却額（特別損失分を除く）＋株式報酬費用＋棚卸資産評価損）

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年4月期第3四半期	7,947	5,198	58.3
2024年4月期	7,691	5,143	61.5

(参考) 自己資本 2025年4月期第3四半期 4,631百万円 2024年4月期 4,729百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年4月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年4月期	-	0.00	-	-	-
2025年4月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年4月期の連結業績予想（2024年5月1日～2025年4月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,000	23.9	500	10.8	450	22.0	30	-	1.99

(参考) EBITDA（営業利益＋減価償却費＋敷金償却＋のれん償却額＋株式報酬費用）2025年4月期（通期）1,000百万円

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年4月期3Q	15,073,460株	2024年4月期	15,045,152株
② 期末自己株式数	2025年4月期3Q	933株	2024年4月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年4月期3Q	15,058,609株	2024年4月期3Q	15,034,156株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結会計期間における我が国の経済状況は、所得・雇用環境が改善される中、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が期待されているものの、欧米における金利政策による海外景気の下振れや、中東・ウクライナ情勢及び物価の上昇が国内景気に及ぼすリスクが見られる等、先行きが不透明な状況が続いております。

その一方で、情報サービス業界においては、従来なかったスピード感での技術革新や、少子高齢化・生産年齢人口の減少等を受け、デジタル技術を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）に関する投資が引き続き拡大を続けています。特に、AI市場においては、OpenAI社による「ChatGPT」のリリースに端を発した、各産業におけるAIトランスフォーメーション（以下、「AIX」という。）に関する投資の加速が続いており、まさに現在進行形で、LLM（Large Language Model：大規模言語モデル）を含むAIの技術競争・需要拡大・社会実装が急激なスピードで進んでおります。なお、当社グループでは、AIXとは、AIを社会に浸透させることにより、その力を通じて既存の業務プロセスやビジネスモデル等を含めて社会全体に抜本的な変革を起こすこと、と捉えております。LLMを含むAIが当たり前のように社会全体に浸透していく中で、主にBPO市場において、AIを業務ツールとして断片的に使うのではなく、より根本的な価値創造・人とAIの共創がテーマとなる世界が到来しております。

また、SaaS市場においても、導入の需要のみならず、「ニーズの多様化に伴うSaaS間連携」「統合管理の複雑化によるセキュリティ要件の高度化」等に関する需要拡大が見込まれるほか、セキュリティ市場においても、サプライチェーンを狙ったサイバー攻撃や一般企業・病院等を狙うランサムウェア被害（身代金要求型ウイルス）が増加しており、また企業によるクラウドサービスの利用やDX化の推進等もあって、セキュリティ対策は必然となっております。

このような環境の中で、当社グループは、HEROZ3.0として「AI BPaaS」を掲げ、単なるSaaSツール提供会社にとどまらず、生成AI等を駆使し、大幅に自動化されたWorkというかたちで価値提供を行い、社会全体にAIXを起こしていくことを目指しております。

また2024年8月には、当社のグループ会社であるVOIQ株式会社が、bizy株式会社の展開するセールス支援事業等の譲り受けを行いました。本事業譲受を通じて、VOIQ社がグループ全体におけるインサイドセールスの機能を担うとともに、セールス領域・コンタクトセンター領域において、当社グループのAI関連技術を活用し、AI BPaaSモデルの推進を進めていきたいと考えております。VOIQ社は、事業譲受後、早々に当社やバリオセキュア株式会社を中心にインサイドセールス機能を担ったほか、HEROZ ASKの活用等を通じてその他のグループ会社についても支援を広げており、またグループ外の顧客への受注も増加しております。当社のBtoB事業においては、上期後半より商談件数が大幅に増加するなど、事業譲受・PMI活動の効果があらわれており、今後もスピード感をもってシナジー増大を進めております。

なお、セグメント別の経営成績の概況は以下の通りです。

(AI/DX事業)

AI/DX事業は、当社グループに蓄積されたAI・SaaS関連技術・ノウハウ・データ等を活用し、AI関連ソリューションの提供やSaaS導入支援・SaaS間連携開発等を提供することにより各企業・業界のAI/DX化推進を目指すセグメントとなります。

当第3四半期連結会計期間において、当社グループのAI/DX事業については、将棋への注目度向上や将棋ウォーズの機能アップデート、稼働案件数・引き合いの増加や大型案件の受注等により、収益が拡大しております。

BtoC領域については、もともと市場において有している圧倒的なネットワーク外部性に加え、将棋への注目度向上が続いたこともあり、「将棋ウォーズ」「棋神アナリティクス」「棋神ラーニング」ともに安定した収益を上げました。当第3四半期会計期間は、棋神ラーニングのアップデートに加え、棋神のバージョンアップ及びそれに伴うキャンペーンを実施し、第3四半期後半にかけて売上・MAU（Monthly Active User）が増加しております。そのほか、2025年2月には将棋ウォーズで累計対局数10億局を達成し、達成を記念して新サービス「スプリント」をリリースしました。スプリントは、初手からではなく、中終盤の緊迫した局面から対局する画期的な新サービスであり、10億局のビッグデータをもとに、棋神が中終盤の互角に近い局面をランダムに抽出し、対局開始からいきなりクライマックスの中終盤戦を体験可能なサービスとなっております。今後も、新規サービスのリリース・機能アップデートなどを通じ、ユーザの皆様の満足度向上・将棋人口最大化を追求してまいります。

また、BtoB領域についても、国内における労働人口不足等により、AIやITに関する投資拡大・注目度向上が起きていることを受け、引き合い・収益が拡大しております。上期は、契約開始時期のズレ等により売上計上の進捗に遅延が見られておりましたが、当第3四半期会計期間は徐々に案件が開始してきており、売上・稼働案件数ともに前年同期を大きく上回る成長を達成しました。そのほか、「HEROZ ASK」「AIさくらさん」等のリカーリング売上も引き続き増加しているほか、「JOINT iPaaS for SaaS」も下期にかけて徐々に売上が拡大しております。BtoB領

域においては、第4四半期以降も見込み案件が多く、また大型案件の開始見込みもあり、前期を上回る成長を目指してまいります。

当セグメントにおいて、LLMの活用・社会実装は事業戦略の中核となるテーマであります。その取り組みとして、2024年5月に生成AIを活用したエンタープライズ向けAIアシスタントSaaS「HEROZ ASK」を本リリースしました。2025年1月には新機能「議事録AI」をリリースし、リリース後早々に多くの問合せ・引き合いをいただいているほか、2月には累計契約顧客数が200社を突破し、なおも売上・顧客数ともに増加しております。当社のAI BPaaSの中心となるSaaSとして、今後も機能アップデート・事業拡大に取り組んでまいります。

（AI Security事業）

AI Security事業は、グループ会社であるバリオセキュア株式会社が提供するインターネットセキュリティ関連の事業となります。

同社は、従来のゲートウェイセキュリティに加え、エンドポイントセキュリティ対策としてサイバー攻撃の兆候を検知するVarioマネージドEDR、増加するランサムウェア被害（身代金要求型ウイルス）から企業の情報資産を守るデータバックアップ（VDaP）、社内の通信機器の状況を運用監視し、通信環境を脆弱性から守るマネージドLAN/WIFI等の各種サービスにより、増大する脅威に対して多層防御により安心、安全なビジネス環境の構築を支援して参りました。

2024年7月には、クラウドからオフィス環境まで対応した、中堅・中小企業の規模に合ったゼロトラストセキュリティサービスとして、「Vario Ultimate Zero」をリリースしており、8月より販売を開始しております。最新のサイバー攻撃を検知・防御可能なセキュリティの担保はもちろん、クラウドからオンプレまで対応可能な柔軟性を兼ね備えており、また、シングルサインオンにも対応しているなど、運用保守の省力化も考慮された新サービスとなっております。こちらを新たな主力サービスとして、新規でグループ入りしたVOIQ社とも連携しつつ拡販活動を進めております。

また同社は、2024年2月期から2026年2月期にかけて、中期経営方針のもと「マネージドサービスの対応領域拡大・競争力強化」「成長セキュリティ市場への参入」「既存販売網と異なる新規営業体制の強化」を掲げ、人材の獲得、サービス企画・事業開発の強化、ソフトウェア開発等の事業投資を行う計画を公表し、実現に向けての取り組みを行っております。

費用面に関しては、コーポレート機能については適切なコストコントロールを進めましたが、事業・サービス拡大に伴う人材採用強化による人件費等の増加、また新規プロダクト（HEROZ ASK・JOINT）への先行投資等により、売上原価・販売費及び一般管理費は前年同期比で増加しております。また、主に当社・バリオセキュア社で法人税・住民税及び事業税が減少した一方で、バリオセキュア社において繰延税金資産を追加計上したこと等により、連結全体での法人税等調整額は増加しております。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は4,346,418千円（前年同期比：19.7%増）となり、EBITDA（注）492,528千円（前年同期比：32.6%減）、営業利益158,428千円（前年同期比：60.7%減）、経常利益91,658千円（前年同期比：73.3%減）、親会社株主に帰属する純損失は180,078千円（前年同期は921,926千円の損失）となりました。

当社グループの当第3四半期連結会計期間におけるセグメント別の損益状況については、「2. 第3四半期連結財務諸表及び主な注記（4）第3四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等の注記）」をご参照ください。

（注）EBITDA：営業利益＋減価償却費＋敷金償却＋のれん償却額（特別損失分を除く）＋株式報酬費用＋棚卸資産評価損

（2）財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

（資産の部）

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ256,346千円増加し、7,947,580千円となりました。これは主に、現金及び預金の減少1,085,870千円があったものの、預け金の増加1,244,256千円があったこと等によります。

（負債の部）

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ201,147千円増加し、2,749,306千円となりました。これは主に、短期借入金の増加200,000千円及び長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）の増加254,672千円があったこと等によります。

（純資産の部）

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ55,198千円増加し、5,198,273千円となりました。これは主に、利益剰余金の減少180,078千円があったものの、その他有価証券評価差額金の増加76,234千円、非支配株主持分の増加143,921千円があったこと等によります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年4月期の連結業績予想につきましては、2024年6月14日に公表いたしました連結業績予想の数値から変更はありません。当資料に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,738,013	1,652,142
預け金	—	1,244,256
売掛金及び契約資産	798,201	838,586
棚卸資産	191,929	117,595
その他	269,144	350,728
流動資産合計	3,997,288	4,203,309
固定資産		
有形固定資産	262,134	229,262
無形固定資産		
のれん	1,963,704	1,921,902
ソフトウェア	156,670	563,924
ソフトウェア仮勘定	427,173	187,812
無形固定資産合計	2,547,548	2,673,639
投資その他の資産	884,261	841,368
固定資産合計	3,693,944	3,744,271
資産合計	7,691,233	7,947,580
負債の部		
流動負債		
買掛金	136,442	138,074
短期借入金	—	200,000
1年内返済予定の長期借入金	215,984	382,664
未払法人税等	103,186	32,530
賞与引当金	37,577	59,526
契約損失引当金	50,597	—
株主優待引当金	20,605	14,082
その他	603,667	537,201
流動負債合計	1,168,061	1,364,079
固定負債		
長期借入金	1,188,072	1,276,064
繰延税金負債	6,008	—
退職給付に係る負債	7,980	9,960
その他	178,037	99,203
固定負債合計	1,380,097	1,385,227
負債合計	2,548,159	2,749,306
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,784	37,452
資本剰余金	5,305,332	5,295,598
利益剰余金	△618,113	△798,192
自己株式	—	△152
株主資本合計	4,709,003	4,534,706
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,571	96,806
その他の包括利益累計額合計	20,571	96,806
新株予約権	58,912	68,251
非支配株主持分	354,587	498,508
純資産合計	5,143,074	5,198,273
負債純資産合計	7,691,233	7,947,580

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2024年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年5月1日 至 2025年1月31日)
売上高	3,631,974	4,346,418
売上原価	1,797,462	2,371,715
売上総利益	1,834,512	1,974,702
販売費及び一般管理費	1,431,775	1,816,273
営業利益	402,736	158,428
営業外収益		
受取利息	18	189
固定資産売却益	158	—
為替差益	—	727
還付加算金	11	—
保険解約返戻金	—	2,717
その他	1,256	2,799
営業外収益合計	1,444	6,434
営業外費用		
支払利息	7,927	12,634
投資有価証券運用損	13,684	24,210
株主優待関連費用	18,974	30,244
貸倒引当金繰入額	7,000	—
その他	12,883	6,115
営業外費用合計	60,470	73,204
経常利益	343,711	91,658
特別損失		
のれん償却額	891,209	—
特別損失合計	891,209	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	△547,497	91,658
法人税、住民税及び事業税	195,053	94,035
法人税等調整額	8,313	39,629
法人税等合計	203,366	133,664
四半期純損失(△)	△750,864	△42,005
非支配株主に帰属する四半期純利益	171,061	138,072
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△921,926	△180,078

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2024年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年5月1日 至 2025年1月31日)
四半期純損失(△)	△750,864	△42,005
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,514	76,234
その他の包括利益合計	5,514	76,234
四半期包括利益	△745,350	34,229
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△916,411	△103,843
非支配株主に係る四半期包括利益	171,061	138,072

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）、敷金償却及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2024年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年5月1日 至 2025年1月31日)
減価償却費	125,222千円	177,193千円
敷金償却	1,982	1,735
のれん償却額	1,031,997	116,539

※前第3四半期連結累計期間ののれん償却額は、販売費及び一般管理費、特別損失で計上した金額の合算になります。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2023年5月1日 至 2024年1月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計
	AI/DX事業	AI Security事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,658,143	1,973,831	3,631,974	—	3,631,974
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,232	687	10,920	△10,920	—
計	1,668,376	1,974,518	3,642,894	△10,920	3,631,974
セグメント利益	526,444	634,594	1,161,038	△758,301	402,736

(注) 1. セグメント利益の調整額△758,301千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

バリオセキュア株式会社の株式の市場価格の下落により、個別決算にて当該株式の減損処理を行い、それに伴い連結決算において、のれんの一部の一括償却を行っております。なお、当該事象によるのれんの償却額891,209千円は、当第3四半期連結累計期間に特別損失として計上しており、セグメント利益には含まれておりません。

なお、上記ののれん償却は株価の下落に伴う連結決算上の処理であり、バリオセキュア株式会社が個別決算で計上しているのれんの償却を行うことを意味しているものではありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年5月1日 至 2025年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計
	AI/DX事業	AI Security事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,339,015	2,007,402	4,346,418	—	4,346,418
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,739	—	4,739	△4,739	—
計	2,343,754	2,007,402	4,351,157	△4,739	4,346,418
セグメント利益	493,550	609,558	1,103,108	△944,679	158,428

(注) 1.セグメント利益の調整額△944,679千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。